

日本出版販売株式会社の調査による「2024年年間ベストセラー」は、以下の通りでした。

<総合>

1位	変な家2 ~11の間取り~	著：雨穴	飛鳥新社
2位	大ピンチずかん2	著：鈴木のりたけ	小学館
3位	成瀬は天下を取りにいく	著：宮島末奈	新潮社
4位	大ピンチずかん	著：鈴木のりたけ	小学館
5位	変な家	著：雨穴	飛鳥新社

<児童書>

1位	大ピンチずかん2	著：鈴木のりたけ	小学館
2位	大ピンチずかん	著：鈴木のりたけ	小学館
3位	パンどろぼうとほっかほっかー	著：柴田ケイコ	KADOKAWA
4位	パンどろぼう	著：柴田ケイコ	KADOKAWA
5位	パンどろぼうとりんごかめん	著：柴田ケイコ	KADOKAWA

年間総合ベストセラー第1位には、作家、雨穴氏の人気作『変な家2 ~11の間取り図~』でした。さらに、第5位となった同シリーズ第一作目の『変な家』は、累計発行部数224万部を突破し、第6位にも同氏の『変な絵』がランクインしています。

同氏シリーズ作品は、総合・単行本フィクション・文庫部門でも1位となり、三冠を達成しています。

日販の解説によると、「同氏の変な家シリーズは、「フィクションをドキュメンタリーのように見せかけて演出する表現手法」を使い、読者に疑似的なリアリティを提供するもので、フィクションとリアルの間にあるような、より没入感の高い作風に注目が集まった」と述べています。

また、『成瀬は天下を取りにいく』は第3位で、続編の『成瀬は信じた道をいく』は第12位となったことから、リアルなホラードキュメンタリーと、共感を呼ぶ青春小説、一見対照的なようではあるが、感情移入という、読者が作品の世界観に没入する点では似ている2作品が人気を集めた年となった。」とも述べています。「変な家」と「成瀬は天下を取にいく」は、中高生にも人気が高かったようです。

本年、2025年には、どんな本に出合えるのでしょうか。楽しみです。

— 調べた内容が正しいか確かめているか —

全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査報告」に、下記の報告がありました。

「パソコンやスマホ、タブレットで調べた内容が、正しいか確かめているか」

	他のサイトで	人に聞いて	本を使って	確かめていない
小学生	36.1 %	26.3 %	11.3 %	26.0 %
中学生	52.9 %	21.0 %	2.9 %	22.9 %
高校生	63.9 %	12.6 %	1.7 %	21.6 %

※小学生は4年～6年

子ども達が、何かを調べる手段として、インターネットを利用することは、今や当たり前のこととなっています。そのような中、学校では、発達段階に応じてコンピューターリテラシーの向上を図る学習も進められています。

その結果、今回の調査においても、どの校種でも、およそ80%の子どもが、1つのサイト情報に頼ることなく、他のサイトを利用したり、人に聞いたりしながら、情報の正確性を高めているようです。

しかし、残念なことに「本を使って」の確かめは、大変、少ないようです。

ネット検索に比べると、多少、手間暇が、かかりますが、本の出版には、多くの人が内容の正しさを確かめることに関わっており、その情報の信頼性には高いものがあります。

今後も、各学校において、コンピューターリテラシーの学習を進めることにより、1つのサイト情報を鵜呑みにせず、「本を使って」や他の方法で情報の正確性を高めることができる子どもが増えることを期待しています。

— 図書館で『TRPGをやってみる』（第8回）開催の案内 —

TRPGとは、テーブルトーク・ロールプレイングゲームの略で、ゲーム機等のコンピュータを使わずに、参加者が会話をしながら架空の世界を演出し、登場人物を演じ、共に課題を解決しながら物語を作り上げていく対話型のボードゲームです。

福岡市総合図書館でも、定期的を開催していますが、次回開催は、3月16日（日）の予定です。興味のある中学生や高校生の皆さんは、参加してみたいでしょうか。

※ 2月に、総合図書館のホームページで、詳しい内容をお知らせしますので、ぜひご覧ください。

令和7年（2025年）が、はじまりました。日販の2024年ベストセラー紹介のコメントに、「読者が作品の世界観に没入する」という1文がありました。「子ども達が、作品の世界観に没入する（できる）本との出会い」をどのように準備していくか……。本年も、それぞれの立場で考え、取り組み、子どもの読書活動を推進していきたいものです。

<須藤>



2月のことと人

2.8 御事始め(おことはじめ)

「御事始め」は、農作業が始まり、一年の営みが始まる日である。この日が、一年の「農の事始め」であり、12月8日はその終わりであることから「御事納め(おことおさめ)」または「事納め」といい、2月8日と12月8日をまとめて「事八日(ことようか)」という。

2.21 国際母語デー

教育・科学・文化の発展と推進を目的とした専門機関である国際連合教育科学文化機関(UNESCO、ユネスコ)が1999年(平成11年)11月に制定。国際デーの一つ。言語と文化の多様性、多言語の使用、母語の尊重を推進することが目的である。

このみ ひかる (1928.2.2~2012 没)

東京都生まれ。日本の児童文学作家、絵本作家、クイズ作家、漫画家。なぞなぞ漫画の第一人者であり、代表作の『ぴよこたん』シリーズは650万部を超えるベストセラーである。

矢玉 四郎 (1944.2.3~2024.7.14)

大分県生まれ。日本の児童文学作家、画家、漫画家、作詞家。大学卒業後、商業デザイナーを経て漫画家として独立する。その後は児童文学に転向、1980年に『はれときどきぶた』(岩崎書店刊)を発表し現代を代表する児童文学の代表作となった。

佐藤 さとる (1928.2.13~2017.2.9)

神奈川県生まれ。日本の童話作家。1959年『だれも知らない小さな国』で、国際アンデルセン賞国内賞を受賞。日本初のファンタジー小説と謳われる『コロボックル物語』シリーズをはじめとするファンタジー的作品で知られる。

ジュールヌ・ヴェルヌ (1828.2.28~1905.3.24)

フランス生まれ。小説家。サイエンス・フィクションの開祖として知られ、SFの父とも呼ばれる。日本への紹介は、1878年、川島忠之助が『八十日間世界一周』の前編を翻訳刊行したのが最初である。『地底旅行』『十五少年漂流記』など、有名である。

図書館員のひみつの本棚 第 225 回

今日は、小学校中学年向けの探偵小説です。

『こちらマガーク探偵団』

E.W.ヒルディック／作 露沢 忠枝／訳, 山口 太一／画 あかね書房

2003年 ¥1000(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

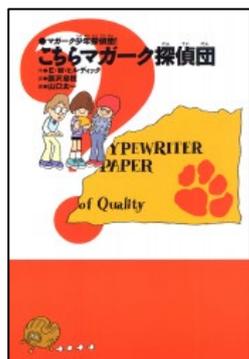
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

引っ越してきたばかりの少年ウィリーの大切なグローブがなくなった！それを知った10歳の少年マガーク(本当の名前はちがうんだけど)は、捜査に乗り出すため親友たちと少年探偵団を結成して、犯人を追いつめる。を結成する。さあ、マガーク探偵団最初の事件の犯人は誰だ？！

<子どもに手渡す時のポイント>

原作は1973年に書かれた物語ですが、現代の子どもたちも夢中にさせてくれる探偵小説です。日本語翻訳版は 1978 年に旧版が出版されており、こちらのシリーズを所蔵している学校や図書館も多いのではないのでしょうか。今回ご紹介の新版と旧版で訳は同じ方なので、内容にあまり変更はないとは思いますが、子どもは本の見た目を重視するものです。ぜひ新しい版に買い替えて手渡してあげてください。気に入った子にはぜひシリーズ続編もご紹介ください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。